
「消化管内視鏡治療における Red dichromatic imaging (RDI) の有用性の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、【埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022/4/1 から 2027/3/31 の期間に【埼玉医科大学国際医療センター】を受診し、上下部消化管内鏡治療時に RDI を使用した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

本研究の目的は消化管腫瘍に対する内視鏡治療における Red dichromatic imaging (RDI) の有用性について明らかにすることです。RDI は特殊波長の光線を照射することで消化管内視鏡分野における様々な有用性が期待されていますが、特に鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における粘膜下層視認などの有用性についての報告は多くありません。今回我々は内視鏡治療における RDI の有用性を広く報告することで、内視鏡治療における安全性の向上と患者様への負担軽減ができるのではないかと考えています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2028年03月31日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から約1ヶ月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

本研究では以下に記載した情報を用いる予定です。

年齢、性別、生年月日、病変の部位、肉眼型、合併症、既往歴、薬歴、術前病変径、切除標本径、切除腫瘍径、術時間、使用薬剤量、RDI 併用による治療対象の視認性、RDI による層の視認性についての色値、一括切除率、術中出血、術中穿孔、後出血、遅発性穿孔、最終病理診断、入院期間について評価します。なお、カルテ番号、患者名(イニシャル)はデータシートには記載せず、データシートと対応可能な情報を厳重に管理します。

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学国際医療センター】において、研究責任者である杉本 啓が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

埼玉医科大学国際医療センターで上下部内視鏡検査・治療を実施された患者さんの臨床データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

（研究責任者、研究実施者）

研究責任者

消化器内科（助教） 杉本 啓

研究実施者

消化器内科（教授） 良沢昭銘

消化器内科（教授） 眞下由美

消化器内科（准教授）田島知明

消化器内科（助教） 石川 翼

消化器内科（助教） 村松孝洋

消化器内科（助教） 杉本 啓

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

問い合わせ先

埼玉医科大学国際医療センター

研究責任医師：（消化器内科）（助教） 杉本 啓

担当医師：（消化器内科）（教授） 眞下 由美

担当医師：（消化器内科）（准教授）田島 知明

電話番号：042-984-4111

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

研究課題名：消化管内視鏡治療における Red dichromatic imaging (RDI) の有用性の検討

研究責任医師：（消化器内科）（助教） 杉本 啓